

セント・ルカ産婦人科

LUKE MAGAZINE WINTER

ルカ新聞

No.28
2013.12.

第31回日本受精着床学会総会・学術講演会（別府市・別府国際コンベンションセンター）

「愛する」という言葉は前回にも述べたように、日本語では「慈愛」、「大切にする」というニュアンスのほうが近いと思います。時々、自分の命の危険も顧みず他人の命を救つた善行が報道されることがあります。本当に心を打たれます。このような人は、自分の命を懸けてまで他人の命を大切に思い、行動したのだと思います。イエス様はそれがもっとも大きな「愛」だといわれます。わたしたちはそのような場面にはめったにめぐり合うことはありません。が、日常生活、仕事、友達付き合いなどで他人を「大切」に思いやるために自分が努力するときがあります。特に大切な人に對しては言わずもがな（しかし、イエス様は大切な人に親切にするのは悪人でも行うと却下しています）。よって、こではそのような利害関係のある場合ではなく、日常の場面において出会った人をいかに大切にするかということでしょう。そして「本当に大切にする」には、その立場での「最も」の行為を行ふことでしょう。そこで最も仕事ができるためには、普段から努力が要求されます。わたしたちが努力をするは最も仕事ができるためであり、それはイエス様が命じたことなのです。そして、それは自分がそれを選んだのではなく、イエス様が選んだといわれます。イエス様が私たちを任命したのです。そして、あなたがこのヨハネの文章を読んだのも、イエス様があなたを選んだからといわれます。この文章を読まれているあなたも、そういう意味で神様から選ばれています。

わたしがあなた方を愛したように、互いに愛し合ひなさい。これがわたしの掟である。友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。わたしの命じることを行うならば、あなた方はわたしの友である。あなた方がわたしを選んだのではない。わたしがあなた方を選んだ。あなた方が出かけていって奥を結び、その実が残るように、また、わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるように、わたしがあなた方を任命したのである。互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である。

〔ハナによる福音書 15章12節－17節〕

柘^さ榴^{くろ}



卷頭言

院長 宇津宮 隆史

記念すべき2013年が過ぎ行こうとしています。今年はなんと言っても第31回日本受精着床学会総会・学術講演会に全国から1,000人を超す参加者を迎える、盛大に、そして無事に終えることができたことがトピックです。これも大分大学医学部産婦人科の宮川勇生名誉教授、櫛原久司教授、河野康志准教授のサイエンティフィックなアドバイスに加え、われわれセント・ルカのスタッフ全員と、われわれを支持してくれている日本受精着床学会の先生方、周囲の企業、組織の方々のおかげと感謝しております。

40年間不妊治療にかかわり、また20年にわたる開業業務において考えてきたことをすべてこの学会にかけたといってよいほど、自分の考え方、思想、意見をあからさまに表現できました。特に、この生殖医療のもっとも重要な目的とは「生まれてくる子ども」の幸せにあるということをメインテーマに掲げたことは、多くの方々から賛同が得られました。また、特別講演、招請講演、教育講演、各シンポジウム、ワークショップなどにも自分の関心のあるテーマを多く選べたことは、会長としての特権であると開き直って計画しましたが、案外、皆様にも好評でありましたことは幸いでした。さらに、「悪性腫瘍と生殖医療」の公開シンポジウムも各方面からの関心も得られ、今後の生殖医療のあり方のひとつが提案できたと思います。また、参加者にはクール・ビズを呼びかけ、スタッフはおそろいのターコイズ・ブルーのポロシャツと、今までにないスタイルで開催し、これも好評であったことは良かったと思います。また、第1日目の夜の総懇親会では、1時間過ぎた頃から参加者が外出していく姿が多く見られ、おそらく別府の町に繰り出して楽しんだ方が多かったのではないかと想像しております。このように一生に一度の機会に恵まれたことは、本当に感謝して余りあるものと思います。

この感激の学会主催を終えてひしひしと感じることは、われわれ生殖医療に携わるもの「責務」です。1978年の世界で初めてのART成功から35年、当時では想像もできなかつたほどの進歩を遂げていますが、しかしその目的はひとつ、みんなの「幸せ」です。特にわれわれ生殖医療に携わるものにとっては、今はまだここにいない、そしてわれわれの生殖医療によって

生まれてくる子どもの権利は、われわれが保障してあげなければなりません。特に出生前に診断される子どもの受け入れと非配偶者間生殖医療で生まれてくる子どもの権利は、われわれの考え方、行動に重くのしかかっています。その重さを感じることなくこれらの手段を用いることはなりません。この技術での結果は他の医療とは異なり、われわれと同じ「人間」がこの世に生まれることに関与していることです。ただ単に子どもがほしい、異常のない子どもがほしい、という患者さんの希望だけを受け入れてことをなすのではなく、これらのさまざまな問題点を患者さん夫婦と話し合い、考え、解決策を試行錯誤し、最も良い方法を選ぶという、面倒でも、時間がかかるとしても、他人に任せるとではなく、主治医としてそのすべてにかかわり、その子どもが80歳になるまで責任をもつ覚悟がなければなりません。そういう意味で今は非配偶者間生殖医療と受精卵、胎児の遺伝子検査においては、まだまだ検討すべき点が多いと思います。特に遺伝子診断については近い将来、ここ2~3年後には今では考えられないほどの進歩が予想され、関連学会、省庁、果ては国会での審議、検討が早くなされ、広く国民としての意見集約を求めなければならない時期にきていると思います。またわれわれはそれを生殖医療のプロとして広く呼びかけねばならない立場にあると思います。

さて、わたしが関与している児童養護施設別府平和園には、2歳から18歳までの40人前後の子どもが暮らしています。この子どもたち自身には何の責任もなくこの世に生まれ、今のような境遇にいなければならぬわけで、さまざまな経験をしてきた子どもたちですのいろいろな困難があります。それに対して献身的にその子どもたちの世話をしている保母さん、保育士、その他の方々の努力には本当に頭が下がる思いです。わたしはこの3年、子どもたちの生活状態、職員の業務内容、園の経済状態、将来構想などに取り組んできました。そして今年度に入って2~3週間ごとに職員全員とのミーティングを持ってきました。業務内容を見ると、やはり考えられないほどの複雑な過去を持った子どももいるわけで、今までの業務手順ではそれらに対しての対応が不十分なこともあります。それは早急に改善するように動いています。また経済的には本当に厳しいものがありそうで、公認会計士の先生に入っていただきました。そのようにして、子どもたちがのびのびと生活でき、職員が少しでも安心して働く平和園にしたいと思っています。皆様のご支援をお願いいたします。





研究室だより

当院院長が学会長として第31回日本受精着床学会総会・学術講演会が別府ビーコンプラザにて行われました。会期2日目の8月9日(金)に、**市民公開講座「がん患者と生殖医療」**が行われました。

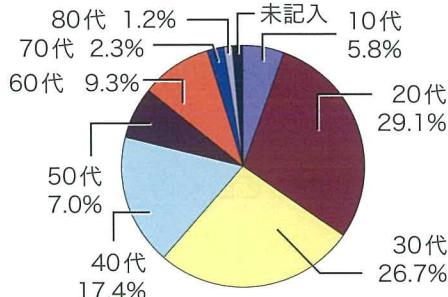
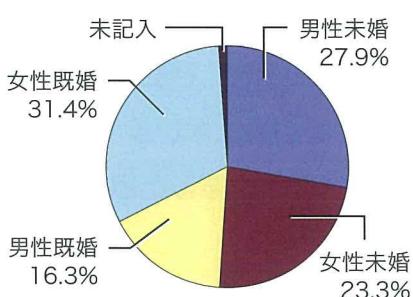
この公開講座は、受精着床学会員のみならず一般市民を対象とし、白血病元患者さん、各分野においてがん治療に携わっておられる医師、卵子凍結保存の普及に尽力されている団体の事務局の方など、6名を全国よりお招きし、貴重な講演をしていただきました。

講座終了後、参加者にアンケート記入をお願いしました。



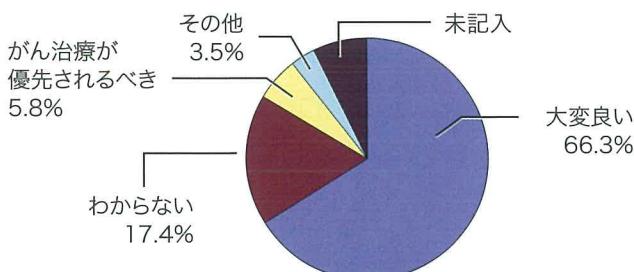
培養室の小池恵も、マウス実験の成果を発表させていただきました

来場者数 113名 アンケート記入者数 86名 (回収率: 76.1%)



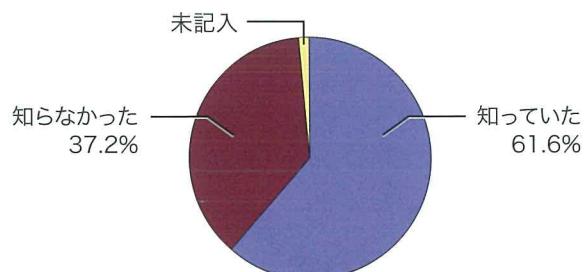
男女、既婚者・未婚者問わず、幅広い年齢層の一般の方が参加されました。参加者のなかには、現在、身近に治療をしている方や、かかりつけの病院で勧められて来た方、また、夫が白血病発病6か月後に死亡したことがあり、現在一番社会で注目していることだから、という方もいました。

Q がん治療をしながら、生殖医療を同時進行で行うことをどう思いますか？



その他の意見として、
「患者さんが生きる希望を持つことは良いことだと思う。」「患者本人が望むことに添えればよいと思う。」といったコメントがありました。

Q 抗がん剤が生殖能力に影響を及ぼす可能性があると知っていましたか？



参加者より
「がん治療によって閉経してしまうということを初めて知りました。」「抗がん剤治療の前に、患者に生殖能力との関係性について十分な情報を提供すべきと思った。また、投与後であってもあきらめずに不妊治療にあたるべきだと思った。」「化学療法を行う際に、妊娠希望かどうか、凍結を進めてもらえるような選択肢があるとよい。」といったコメントが挙がりました。

Q この講座内容で何が分かりましたか？今後何を期待しますか？

- がん治療とそれがもたらす不妊についてがん治療医がすべての患者さんへ情報できる社会を期待します。
- 医療の常識や科にとらわれることなく、患者さんのQOL向上のため最大限の努力をしていくことが大切だと思いました。
- 病気の治療前に温存治療等選択肢が色々あるということが解りました。
- このテーマについて色々な見方をすることができる事がわかった。
- 配偶者の保存技術、不妊治療の発展、がん治療との連携などによって、妊娠をあきらめなければならない人が減ってほしい。
- 最新の生殖医療の実態が分かりました。倫理的な問題の議論も頂きたい。

その他、参加者の皆様からたくさんの意見や要望、不安に感じていることなどが寄せられました。生殖補助医療従事者として、精子や卵子の妊娠性温存のための正確な情報を幅広い分野に広め、患者さんの治療後のQOL向上のために努めなければならぬと感じました。

看護部だより



妊娠・出産に対する意識調査

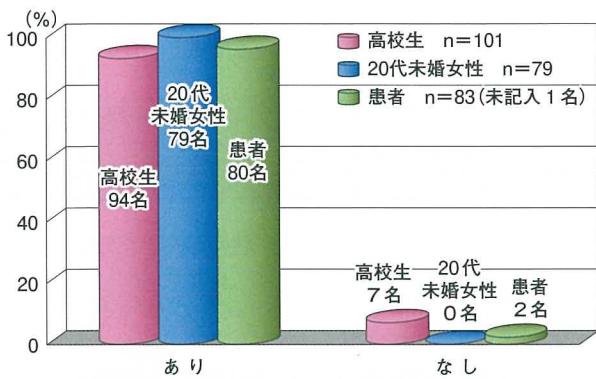
—高校生・20代未婚女性・不妊症患者を対象に—

看護部 岡田 清美

高校生・20代未婚女性と当院で治療中の患者が、どのように性や結婚・妊娠・出産について考えているのかを質問紙にて調査しました。

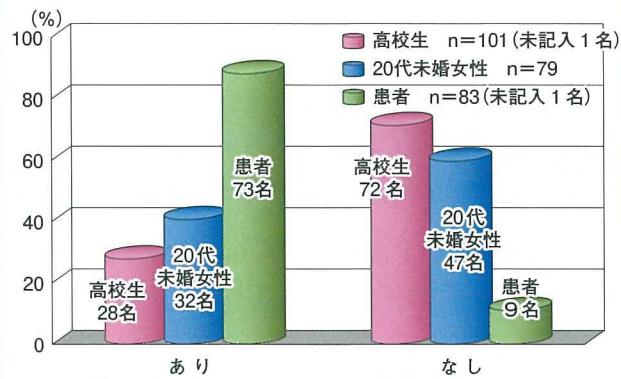
調査に協力してくださった当院治療中の患者さんに感謝します。

不妊という言葉を 聞いたことがありますか？



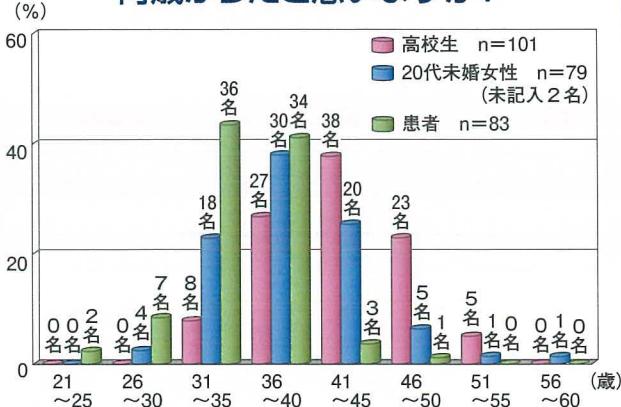
高校生 94名 93%、20代未婚女性 79名 100%、当院治療中の患者さん 80名 96%が聞いたことがありますと答えています。

卵子の老化・卵巣予備能という言葉を 聞いたことがありますか？



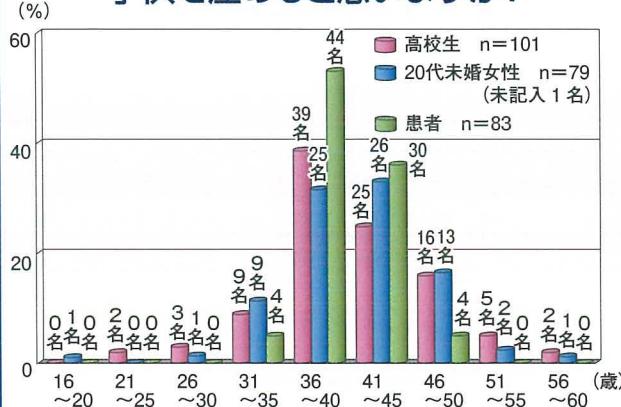
高校生 28名 28%、20代未婚女性 32名 40.5%、当院治療中の患者さん 73名 88%が聞いたことがありますと答えています。

妊娠が難しくなるのは 何歳からだと思いますか？



高校生は41歳～45歳、20代未婚女性は36歳～40歳、当院治療中の患者さんは31歳～35歳と答えています。

一般的に何歳まで 子供を産めると思いますか？



高校生の48%、20代未婚女性の53.2%が41歳～60歳まで子供を産めると答えています。当院治療中の患者さんは41%が41歳～50歳と答えています。

年代に関わらず「不妊」という言葉はよく知られていることがわかりましたが、詳しい実情は知らないことが明らかになりました。早い段階から生殖についての正確な情報に基づいた教育が必要であると考えられます。

第31回日本受精着床学会総会・学術講演会大成功!!

会期:2013年8月8日~9日

会場:別府国際コンベンションセンター (B-Con Plaza)

第31回日本受精着床学会総会・学術講演会が開催されました。1000人を超える参加者があり、大成功に終わりました。

開催にあたり御協力して頂いた先生方、各企業の皆様のお蔭で無事に二日間に渡り学会を開催することができました。ありがとうございました。

院長は、会長講演で「これから生殖医療 産まれてくる子供のために」というテーマで、非配偶者間人工授精（AID）で産まれた人のグループと関わりを持ち我々の行っている生殖医療の結果、このような方々が存在することを無視できないと思っていますとご講演されました。



アメリカ生殖医学会2013 (ASRM)

会期:2013年10月13日~19日

会場:アメリカ ボストン

ボストンで開催されたアメリカ生殖医学会に参加させていただきました。ポスター発表総数が1343題もあり、会場の広さに圧倒されました。セント・ルカからは、看護部1題、研究室1題、院長1題の計3題のポスター発表をさせて頂きました。英語での質問に苦労しながらも、何とか回答することができました。

ボストンの紅葉にはまだ早かったですがあしずつ木々が色づいてきており、とても美しい街並みでした。ボストンにはメジャーリーグのレッドソックスがあり、試合を観戦することができました。臨場感たっぷりの試合でとても楽しむことが出来ました。



The 9th Conference of the Pacific Rim Society for Fertility and Sterility (ポスター賞受賞)

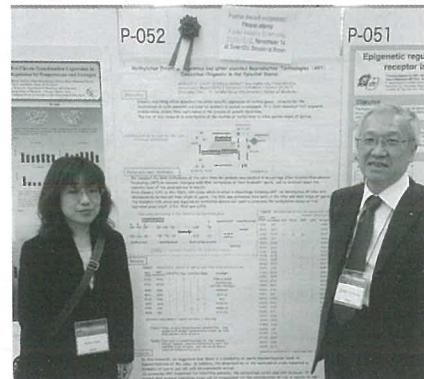
会期:2013年11月13日~14日

会場:神戸国際会議場

第9回環太平洋不妊学会が神戸の国際会議場で行われました。

2日間で9つのセッションと2つの特別講演、そして70演題の一般ポスター発表がありました。研究室から2名、看護師1名が参加させていただきました。研究室のインプリンティングの研究より、「流産後得られる絨毛の染色体検査で正常を示した症例のその絨毛と夫精子のメチル化解析」がポスター賞を受賞いたしました。

これを励みに今後も活発に研究を続けていきたいと思います。

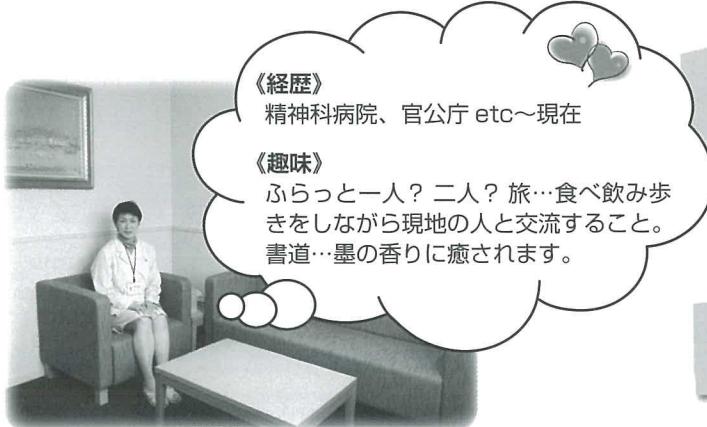


心理相談室より

今年の4月に入社を致しました。臨床心理士の稗田真由美と申します。

以前は、臨床心理士として病院などで勤務をしておりましたが、不妊治療の病院は初めてなので、患者様、先生方また病院スタッフに専門的なことを教えていただきながら、自らの知識、またここでの経験が少しづつ積み重ねられていることを実感しております。

私の仕事は、不妊治療についてだけでなく、生活状況や背景などをお聞きし、一人の悩みを抱える人として理解していくことだと思っております。自分では解決できそうにないこと、悩んでいる気持ちに蓋をしていることは誰でもあることです。その想いが溢れそうになったら是非声をかけてください。一緒に具体的な方向性や対応などを探していきましょう。



心理相談室よりお知らせ

一人で悩んでいませんか？

治療に関することだけでなく、夫婦・家族関係、仕事との両立、生活ストレスなど…。
自分で解決するには難しいことがありますよね。

何か気持ちが落ち着かない時には、是非一度お話を来てください。

受付より

3階中待合室をリニューアルしました(^ ^)

中待合室のギャラリーコーナーに椅子を設置しました。スペースが広くなりましたが、ご利用ください。また、掲示で診療予定や各講座、サークル、クリスマス会のお知らせ、妊娠率など患者さんに向けたご案内をしております。是非、来院の際にご確認ください。



3階には談話室がございます(^ ^)

談話室にはこちらのルーム新聞を設置しております。また、毎日当院の厨房スタッフが、コーヒー等のお飲み物を準備しております。無料でご利用いただけますので、待ち時間やお帰りになるまでのお時間におくつろぎください。

患者さんの声を聞かせてください(^ ^)

より良い医療、環境を提供できるようスタッフ全員日々奮闘しております。3階トイレに患者さんの声ボックスを設置しております。何かお気づきのことがございましたら、ご記入いただけすると励みになります。

新人紹介



初めてのこ
とばかりで学
ぶことが多い
ですが、早く
一人前になっ
て患者さん
の力になれるよ
う頑張りたい
と思います。
よろしくお願
いします。

下川侑樹乃(研究室)



後藤厚子(研究室)

週4日前
中だけ検査室
にいます。皆
様の足を引っ
張らない様に、
またお役にた
てる様に一生
懸命頑張りま
す。よろしく
お願ひいたし
ます。



戸高里美(看護部)

全く経験の
ない分野な
で、学ぶ事ば
かりですが一
生懸命頑張り
ます。宜しく
お願いします。



2013年 後期を振り返って

<p>07.02 第31回 日本受精着床学会総会 学術講演会に向けての打合せ 株式会社コンパックス(東京)より3名ご来院</p> <p>07.02 大分県助産師会 平成25年度不妊予防啓発事業出前講座合同勉強会(当院 多目的ホールにて) 講義:「不妊症とは?」(院長)</p> <p>07.03 吉村やすのり先生出版祝賀会(東京) 参加(院長)</p> <p>07.05 読売新聞記者 取材の為ご来院</p> <p>07.06 新患教室 参加者39名 参加(越名、下川、長木、戸高、坂本、足立直、斎高、後藤裕、稗田)</p> <p>07.09 院内全体研修: 避難訓練(担当: 研究室・培養室)</p> <p>07.10 大分県立看護科学大学(大分)講義 参加(平松、下川、戸高、岡田、二宮、篠田、稗田) 講義:「不妊症講座」(院長)</p> <p>07.11 大分県立看護科学大学(大分)講義 参加(稗田) 講義:「不妊症患者の心理的支援一加齢患者と治療終結を中心に」(上野桂子)</p> <p>07.13 第4回 遺伝カウンセリング研究会(京都) 参加(院長)</p> <p>07.16 第12回 聖書の学び 日本書紀ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院</p> <p>07.17 厚生労働科学研究班 第1回研究班会議(東京) 参加(工藤、院長)</p> <p>07.17 厚生労働科学研究班実習の調査実務担当者会議(東京) 参加(工藤)</p> <p>07.18 MediPlaza(沖縄)にて医療ICT講習会 参加(工藤)</p> <p>07.19 共同道徳社医療局社会部記者 取材の為ご来院</p> <p>07.20 第194回 体外受精教育会 参加者58名 参加(足立直、下川、熊迫、松木、岡田、二宮、関、稗田)</p> <p>07.21 第31回 日本受精着床学会総会 学術講演会に向けての打合せ</p> <p>07.25 株式会社コンパックス(東京)より3名ご来院</p> <p>第21回 受着会議 参加(山路、安部、工藤、足立直、越名、城戸、後藤香、熊迫、長木、大津、篠田、越名、後藤裕、上野、河邊、院長)</p> <p>07.27 第9回 ご夫婦二人生だけの人生を選ばれた元患者さんを囲む会 参加者10名</p> <p>日本放送協会(NHK)大分放送局より記者1名取材の為ご来院</p> <p>08.03 第74回 新患教室 参加者55名 参加(越名、下川、後藤香、坂本、川村、斎高、後藤裕、稗田)</p> <p>日本受精着床学会常務理事会(別府) 参加(院長)</p> <p>第31回 日本受精着床学会総会 学術講演会(別府) 大会長: 院長 参加(全職員) 会長講演: 「これからのがん生涯医療一生これまでくることのために」(院長) 市民公開講座: 「抗がん剤(シクロフォスファミド): CPA」投与によるマウス卵巣機能への影響(小池恵) シンポジウム: 「新たな閉鎖系試験法を用いた胚盤胞の結合融解胚移植における臨床成績の比較」(城戸京子) 「電気化学計測技術を応用したヒト胚品質評価法の開発と 不妊治療における頸動脈の有用性に関する研究」(熊迫陽子) 「治療経過における支援ー心理士の立場からー」(上野桂子) 「子宫内膜症性卵巣囊腫エコノーマ固定術と再発、悪性化の検討」(河邊史子) ワークショップ: 「当院における医療安全対策と今後の課題」(後藤裕子) ランチョンセミナー: 「配偶者(夫または妻)に色覚異常を有する症例へのアプローチ」(大津英子) 発表: 「ART 後の流産における毛細血管染色検査結果が正常の毛と 対応精子のメチル化解析」(佐藤昌子) 「HRT 周期におけるDAY3凍結胚盤胎の至適解離移植日の検討」(後藤香里) 「不妊治療施設におけるインシデントレポート ~発生状況と対策についての分析~」(手島しおり) 「妊娠・出産に対する意識調査(高校生・20代未婚女性・不妊症患者を対象に)」(岡田清美)</p> <p>08.10 第195回 体外受精教育会 参加者46名 参加(油野、足立直、下川、佐藤、岡田、関、稗田)</p> <p>08.13 第173回 聖書の学び 日本書紀ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院</p> <p>08.14 JISART 生殖医療サマーフォーラム(東京)</p> <p>08.17 第20回 体外受精伝達学セミナー(東京) 参加(城戸、大津、院長)</p> <p>08.24 第21回 女性クリニック(森永) 連尾豊先生による別府平和園児童への性教育講座(別府)</p> <p>08.28 弘前女性クリニック(森永) 連尾豊先生によるお母さんのための性教育講座(大分)</p> <p>08.29 第31回 日本受精着床学会総会 学術講演会開催会</p> <p>08.30 第54回 「赤ちゃんへ今ならきっと授かる」講座(大分・トキハ会館) 参加者74名 講師:「越名(受付)、後藤裕(看護師)、稗田、上野(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生」 参加(山路、下川、城戸、坂本、足立直、斎高)</p> <p>08.31</p>	<p>10.13 JISART 施設認定審査 審査員(後藤裕)</p> <p>10.22 院内全体研修: 胚の発育に関する(担当: 研究室・培養室)</p> <p>10.26 第1回 第9回オリーブの会 参加者8名</p> <p>10.27 平成25年度 日本卵子学会 第2回理事会(東京) 参加(院長)</p> <p>10.29 第112回 大分県周産期研究会(大分) 参加(山路、安部、工藤、大城、足立直、下川、小池、佐藤、熊迫、長木、大津、戸高、坂本、北田、亀井、足立直、二宮、斎高、赤嶺、関、篠田、越光、後藤裕、稗田、河邊、院長)</p> <p>10.30 東北新社 映像制作事業部より、「非配偶者間提供医療について」の電話取材</p> <p>11.01 新職員 伊藤京美(看護部)</p> <p>11.02 第19回 体外受精教室 参加者77名 参加(油野、足立直、下川、佐藤、伊藤、戸高、松木、二宮、関)</p> <p>11.08 クリニック(大阪) より6名ご来院</p> <p>11.09 第55回 「赤ちゃんへ今ならきっと授かる」講座(大分・トキハ会館) 参加者75名 講師:「越名(受付)、後藤裕(看護師長)、稗田(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生」 参加(工藤、油野、下川、長木、伊藤、戸高、坂本、足立直)</p> <p>11.10 第10回 大分県母性衛生学会役員会(大分) 参加(後藤裕)</p> <p>11.10 第10回 大分県母性衛生学会(大分) 参加(戸高、坂本、川村、亀井、足立直、松元、二宮、斎高、赤嶺、関、篠田、越光、後藤裕、河邊、院長)</p> <p>発表:「妊娠・出産に対する意識調査-高校生・20代未婚女性・不妊症患者を対象に」(岡田清美)</p> <p>11.11 第31回 おぎやま金賞准進月間記念講演会(大分) 参加(後藤裕、河邊、院長)</p> <p>11.12 大分朝日放送(OAB)より、「国が不妊治療助成金の給付対象を43歳までとする動きについて」のインタビュー取材</p> <p>11.13 第176回 聖書の学び 日本書紀ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院</p> <p>The 9th of the Pacific Rim Society for Fertility and Sterility(神戸) 参加(院長)</p> <p>発表:「Fertility clinic Incident report Occurrence of incidents and measures taken -」(手島しおり)</p> <p>11.14 第58回 IFFS International Meeting 2015「第3回組織委員会」(神戸) 参加(院長)</p> <p>IFFS International Meeting 2015「第3回組織委員会」(神戸) 参加(院長)</p> <p>大分朝日放送(OAB)より、「国が不妊治療助成金の給付対象を43歳までとする動きについて」の患者さんへのインタビュー取材</p> <p>11.15 第58回 日本生殖医学学会術議会 構会・総会(神戸) 一般演題(演題・監修・監修・座長) 院長</p> <p>発表:「抗がん剤(シクロフォスファミド:CPA)投与によるマウス卵巣機能への影響」(小池恵) 「観察による胚へのストレスを考慮したPrimo Vision(Time - Lapse embryo monitoring system)を用いた胚発生について」(後藤香里)</p> <p>11.16 第58回 IFFS International Meeting 2015「第3回組織委員会」(神戸) 参加(院長)</p> <p>IFFS International Meeting 2015「第3回組織委員会」(神戸) 参加(院長)</p> <p>大分朝日放送(OAB)より、「国が不妊治療助成金の給付対象を43歳までとする動きについて」の患者さんへのインタビュー取材</p> <p>11.17 第3回 JISART 事務教育委員会(東京) 参加(越名)</p> <p>11.19 第21回 日本人類遺伝学会第58回大会(宮城) 参加(下川、城戸、大津、院長)</p> <p>11.20 第44回 大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加(山路、安部、青木、二宮、斎高、戸高、坂本、北田、岡田、亀井、足立直、二宮、赤嶺、関、篠田、越光、河邊)</p> <p>11.21 発表:「抗がん剤(シクロフォスファミド)投与によるマウス妊娠能への影響」(小池恵) 「不妊治療施設におけるインシデントレポート~発生状況と対策についての分析~」(手島しおり)</p> <p>11.22 第12回 セミナー医療と社会 第58回講演会(青森) 参加(下川、城戸、大津)</p> <p>11.23 第2回 第9回オリーブの会 参加者7名</p> <p>11.30 第9回オリーブの会 参加者7名</p> <p>11.30 予育ての応援とゼロ歳児からの虐待防止を目指して(大分) 参加(長木、大津、坂本、北田、院長)</p> <p>12.03 株式会社バズラボ フリーマガジン「ジネコ」春号(Vol.21)取材</p> <p>12.14 第19回 体外受精教室</p> <p>12.14 忘年会</p> <p>12.21 第76回 新患教室</p> <p>12.22 みんなでフォーラム「本気で語ろう 思春期の性のこと」(福岡) 参加(工藤、足立直、佐藤、岡田、関)</p> <p>12.22 ARTにより出生した児の長期予後調査に関する検討会(東京) 参加(院長)</p> <p>12.23 2013年度第3回生殖医療從事者講習会(東京) 参加(院長)</p> <p>12.24 クリスマス会</p>
<p>09.05 第53回 日本産科婦人科内視鏡学会(愛知) 参加(院長)</p> <p>09.06 第23回 遺伝医学セミナー(千葉) 参加(院長)</p> <p>09.10 第174回 聖書の学び 日本書紀ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院</p> <p>09.10 第19回 センターゼル産婦人科倫理委員会</p> <p>09.11 第54回 「赤ちゃんへ今ならきっと授かる」講座(大分・トキハ会館) 参加者74名 講師:「越名(受付)、後藤裕(看護師)、稗田、上野(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生」 参加(山路、下川、城戸、坂本、足立直、斎高)</p> <p>09.13 第44回 日本書紀学会看護組合会(別府) 参加(手島)、後藤裕</p> <p>09.13 第21回 大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加(河邊)</p> <p>09.15 JISART ランチ主任 クラスによる地区別施設交流会(福岡) 参加(後藤香)</p> <p>09.19 IVF 大阪アリック(大阪) 病院看護部・准看護師会 参加(河邊、院長)</p> <p>09.21 第19回 体外受精教育会 参加者69名 参加(足立直、小池、岡田、松木、二宮、篠田、稗田)</p> <p>09.22 平成25年度 日本卵子学会 第1回理事会(東京) 参加(院長)</p> <p>09.24 第21回 大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加(河邊)</p> <p>09.27 第20回 出生前診断研究会(鹿児島) 参加(佐藤、城戸、後藤裕)</p> <p>09.28 第20回 遺伝性疾患に関する出生前診断研究会(鹿児島) 参加(佐藤、城戸、後藤裕)</p> <p>09.29 第10回 日本生殖看護学会九州地区勉強会(福岡) 参加(手島)、後藤裕</p> <p>09.29 九州思春期研究会10周年記念研究会(福岡) 参加(越名、岡田、関)</p> <p>10.04 第38回 大分市医師会産婦人科内分娩不妊~代謝~懇親会(大分) 参加(山路、安部、工藤、大城、青木、西脇、足立直、越名、下川、佐藤、城戸、大津、戸高、坂本、足立直、斎高、戸高、坂本、足立直、松元、二宮、斎高、赤嶺、関、篠田、越光、後藤裕)</p> <p>10.05 第55回 新患教室 参加者71名 参加(越名) OGA 1名 参加者5名</p> <p>10.06 JISART 施設認定審査 審査員(院長)</p> <p>10.08 第175回 聖書の学び 日本書紀ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院</p> <p>10.08 第44回 大分産科婦人科内視鏡研究会(大分) 参加(坂本、北田、二宮、篠田、河邊)</p> <p>10.09 69th Annual Meeting of American Society for Reproductive Medicine(Boston) 参加(事務長)</p> <p>発表:「Methylation errors at imprinted loci after assisted conception originate in the parental sperm」(院長)</p> <p>10.10 第11回 「Impact of pre and post laparoscopic ovarian treatment on ovarian reserve in infertile women」(長木美幸)</p> <p>10.11 第12回 「Fertility Clinic Incident Report - Occurrence of Incidents and Measures taken -」(手島しおり)</p>	<p>著書 〈院長〉 「ヒト体外受精における受精卵の質評価のため呼吸量測定を行う臨床の意義」 「日本胚移植学雑誌」第35巻1号(日本胚移植研究会)</p> <p>「不妊症患者の出生前診断についての意識調査」(産婦人科医の実際)第62巻第11号(金原出版株式会社)</p> <p>「I.一般的不妊診療の実際 1.ルチンテストの再考」 「I.一般的不妊診療の実際 15.機能性不妊」(手島しおり)</p> <p>「IVF 大阪アリック(大阪) 病院看護部・准看護師会 参加(河邊、院長)</p> <p>「16.生殖医療と倫理・法 配偶子提供と出自を知る権利」(医療産業出版株式会社) (医学書院)</p> <p>「生殖医療と社会ー生まれてくる子どものためにー」(セミナー医療と社会) (印刷中)</p> <p>〈院長／上野桂子〉 「不妊治療と社会ー生まれてくる子どものためにー」(セミナー医療と社会) (印刷中)</p> <p>「生殖医療ー不妊カウンセリング」(臨床心理学) 増刊第5号(金剛出版)</p> <p>翻訳 〈院長〉 「不妊症(原題: Infertility)」『障害の百科事典(原書: Encyclopedia of Disability)』(丸善出版株式会社)</p> <p>論文 〈院長〉 「非配偶者間生殖医療(提供精子人工授精: AID)の実態と今後の課題」 - AIDで生まれた方々の意識調査をもとにして-」 日本受精着床学会雑誌 30(1): 146-159, 2013</p> <p>〈熊迫陽子〉 「Respiratory Activity of Single Blastocysts Measured By Scanning Electro Microscopy: The Relationship between Pre - freezing and Post - warming」 J. Mamm. Ova. Res. 30(1): 30-35, 2013</p> <p>〈城戸京子〉 「胚移植不能・全胚凍結不能時の説明における胚培養士の関わり方」 日本受精着床学会雑誌 30(2): 255-260, 2013</p>
<p>09.13 第44回 日本書紀学会看護組合会(別府) 参加(手島)、後藤裕</p> <p>09.13 第21回 大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加(河邊)</p> <p>09.15 JISART ランチ主任 クラスによる地区別施設交流会(福岡) 参加(後藤香)</p> <p>09.19 IVF 大阪アリック(大阪) 病院看護部・准看護師会 参加(河邊、院長)</p> <p>09.21 第19回 体外受精教育会 参加者69名 参加(足立直、小池、岡田、松木、二宮、篠田、稗田)</p> <p>09.22 平成25年度 日本卵子学会 第1回理事会(東京) 参加(院長)</p> <p>09.24 第21回 大分市医師会産婦人科内分娩不妊~代謝~懇親会(大分) 参加(河邊)</p> <p>09.27 第20回 出生前診断研究会(鹿児島) 参加(佐藤、城戸、後藤裕)</p> <p>09.28 第20回 遺伝性疾患に関する出生前診断研究会(鹿児島) 参加(佐藤、城戸、後藤裕)</p> <p>09.29 第10回 日本生殖看護学会九州地区勉強会(福岡) 参加(手島)、後藤裕</p> <p>10.04 第38回 大分市医師会産婦人科内分娩不妊~代謝~懇親会(大分) 参加(山路、安部、工藤、大城、青木、西脇、足立直、越名、下川、佐藤、城戸、大津、戸高、坂本、足立直、斎高、戸高、坂本、足立直、松元、二宮、斎高、赤嶺、関、篠田、越光、後藤裕)</p> <p>10.05 第55回 新患教室 参加者71名 参加(越名) OGA 1名 参加者5名</p> <p>10.06 JISART 施設認定審査 審査員(院長)</p> <p>10.08 第175回 聖書の学び 日本書紀ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院</p> <p>10.08 第44回 大分産科婦人科内視鏡研究会(大分) 参加(坂本、北田、二宮、篠田、河邊)</p> <p>10.09 69th Annual Meeting of American Society for Reproductive Medicine(Boston) 参加(事務長)</p> <p>発表:「Methylation errors at imprinted loci after assisted conception originate in the parental sperm」(院長)</p> <p>10.10 第11回 「Impact of pre and post laparoscopic ovarian treatment on ovarian reserve in infertile women」(長木美幸)</p> <p>10.11 第12回 「Fertility Clinic Incident Report - Occurrence of Incidents and Measures taken -」(手島しおり)</p>	<p>著書 〈院長〉 「ヒト体外受精における受精卵の質評価のため呼吸量測定を行う臨床の意義」 「日本胚移植学雑誌」第35巻1号(日本胚移植研究会)</p> <p>「不妊症患者の出生前診断についての意識調査」(産婦人科医の実際)第62巻第11号(金原出版株式会社)</p> <p>「I.一般的不妊診療の実際 1.ルチンテストの再考」 「I.一般的不妊診療の実際 15.機能性不妊」(手島しおり)</p> <p>「IVF 大阪アリック(大阪) 病院看護部・准看護師会 参加(河邊、院長)</p> <p>「16.生殖医療と倫理・法 配偶子提供と出自を知る権利」(医療産業出版株式会社) (医学書院)</p> <p>「生殖医療と社会ー生まれてくる子どものためにー」(セミナー医療と社会) (印刷中)</p> <p>〈院長／上野桂子〉 「不妊治療と社会ー生まれてくる子どものためにー」(セミナー医療と社会) (印刷中)</p> <p>「不妊症(原題: Infertility)」『障害の百科事典(原書: Encyclopedia of Disability)』(丸善出版株式会社)</p> <p>翻訳 〈院長〉 「非配偶者間生殖医療(提供精子人工授精: AID)の実態と今後の課題</p>